

【テーマ2:教育委員会・学校・大学の協働による

拡散型オンライン教員研修モデルの開発と広域展開】

【国立大学法人上越教育大学】

研究代表者: 榊原範久(教授)

研究実施者: 桐生徹(教授)、水落芳明(教授)、大島崇行(教授)、
関原真紀(准教授)

協力委員会: 妙高市教育委員会、柏崎市教育委員会、糸魚川市教育
委員会(※いずれも新潟県の地方自治体)

研修対象人数: 3市町の公立小中学校に所属する教員約1000名

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 複雑化・多様化する教育課題へ対応していくために教師の資質向上は必須であり、それらの教育課題に対応した教員研修の実施が求められている。オンラインなどの「デジタル」と、従来型の対面などの「リアル」には、相互にメリットとデメリットがあり、教員研修においても「デジタル」と「リアル」の最適な組み合わせを検討する必要がある。

モデルの概要

- ◆ 教育委員会・学校・大学の協働による拡散型オンライン教員研修モデルとして「J-SOTTプログラム(Joetsu Spread Online Teacher Training Program)」と称した教員研修モデルを開発した。(右図の説明に詳細を記す)

活用する技術・ツール等

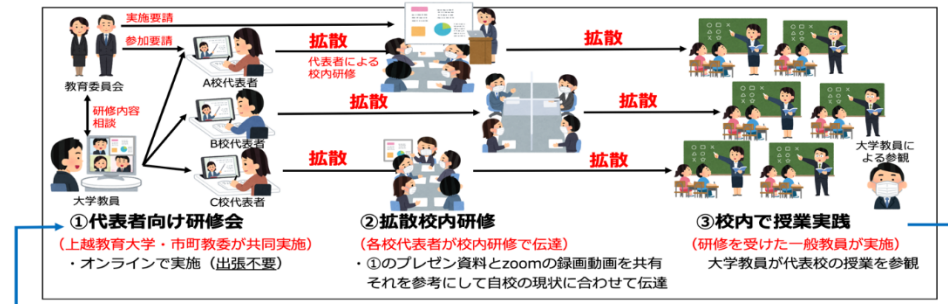
- 大学教員は通常のオンライン研修をリアルタイムで配信
- 受講者は、各2台の端末を準備し、1台をWeb会議アプリ用、もう1台をオンラインホワイトボードアプリ用として使用



高度化に資する取組

◆ 拡散型オンライン教員研修モデル(図1)の実施手順

まず、事前に教育委員会と大学教員が実施方法を相互に確認する。そして、大学教員による「①代表者向け研修」をオンラインで実施→各校の代表者による「②拡散校内研修」→一般教師による「③授業実践」→大学教員によるオンライン授業参観の流れで行う。参観を通じて成果と課題を把握し、次の教員研修に盛り込む。なお、①の代表者は端末を2台使用し、Web会議アプリとデジタルホワイトボードアプリを併用して、常に参加者全体の思考を可視化した環境を構築して実施した。



③の授業実践の参観で収集した成果と課題を、次の教員研修に盛り込む

図1「J-SOTTプログラム」の構想図

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ① 教育委員会・学校・大学が三位一体となった連携・協働による汎用的な教員研修モデルの構築
- ② 大学の専門知を活かした教師の資質向上への貢献
- ③ オンラインを活用した研修方法の合理化・効率化(教師の負担軽減、働き方改革の実現)
- ④ 校内研修におけるリーダーの育成と市内全小中学校へ統一した研修内容の拡散